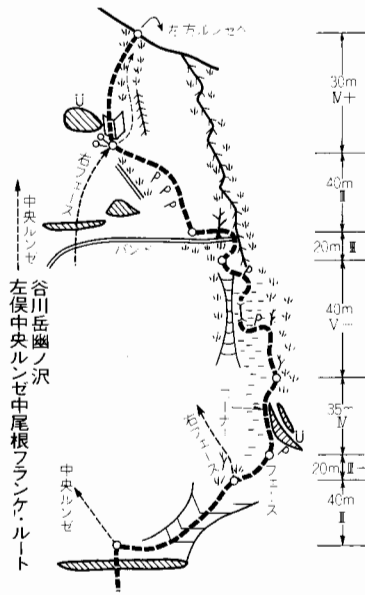


①エケ  
②フン  
③左根  
④澤ノ  
⑤岳ル  
⑥谷川  
⑦中央  
⑧ス  
⑨岡田  
⑩昇  
⑪影



谷川岳 幽ノ沢  
左俣中央ルンゼ中尾根フランケルルート

このルートは、取付から終了点まで気の抜けない登攀が続き、衝立岩でも最長のスケールをもち、また一ノ倉沢で登攀者を迎えるのがまれなルートのひとつである。冬期単独初



登(通算冬期第一登)。

幽ノ沢左俣中央ルンゼ中尾根フランケルルート(仮称)左方ルンゼ下降(中央壁実践ダイレクト・ルート)一九八三年五月二十九日、J.E.C.C.の田中隆(24)と西洋祐(21)は、当初中央ルンゼ右フェースを登るつもりがルートを誤まり、結局急なルンゼ状スラブ壁を登り切つて新ルート、中尾根フランケルルートとし、中央壁では既登者の少ない実践ダイレクト・ルートへと継続した。中尾根フランケルは、七ピッチ、二三五、V一のオール・フリー。ルートのポイントでは、四ピッチ目の下りぎみのトラバースで高度感もでて気分がよい。少

少フツシユが気にはなるものの、岩も堅くフリクションも効くので快適なルートだろう。登攀に際しては、残置支点が無いので薄刃ピトン三枚程度、ロックスリー三番があるとい

### 八ガ岳・奥秩父

#### 八ガ岳

阿弥陀岳広原沢第二ルンゼ奥壁一九八三年七月一日、R.C.C.神奈川の池学と赤岳A.C.C.の石川裕規が登つた。瀧漣からは右手チムニー状を進み四ピッチで中央稜に抜けるが、入山者が少ないせいか浮石が多く、そのため三回の墜落があったという。なお池は北稜を下降した。

#### 小川山

おもだったラインはひかれくさされた感のある西股沢周辺だが、残された課題を求めて、比較的奥まった所や目立たない岩場にルートが拓かれた。

#### 屋根岩

4峰南稜タケちゃんクラック一九八三年五月三日、J.M.C.C.の大江英晃(23)、浅井次郎(37)、斎藤健(22)は、神奈川ルートをフリーで登攀した際、一ピッチ目は右側のオフワイスを登つた。奥にジャミングが効

で岩質が悪いうえに残置支点もほとんど無く、ルート全体としても絶対に落ちられないという心理的な緊張が続くルートだったという。

〔資料〕木浪貴、田中隆

くが出口も辛く、岩が脆いぶんだけ廻り目平岩塔群取高ルーフ三ピッチのオフワイスより難しく感じた。エビのシッポ・エビフライ 翌4日には、大工は秋原絹代(22)、岡村千恵子(37)と、3、4峰間のエビの

